

4. 京田辺市史の文書調査

東 昇

1. 概要

京田辺市においては、2014年度から歴史史料調査、2017年度から市史編さん事業を行っている。京田辺市との連携協定により、文学部歴史学科が協力し、多くの歴史学科教員および学生・院生が参加し各種調査等を進めている。

2023年度は、文化情報学研究室を中心に文書調査に参加した。その活動内容としては、近世文書の調査・分析、近世史執筆内容検討会などが挙げられる。

調査参加者 東昇（教員）、竹中友里代、山田洋一（以上特任講師）、渡邊幸奈（4回生）、小島慧音、島村朱音（以上3回生）

2. 内容

中世・近世部会の部会員・市史編さん室職員が調査・研究報告を行う近世史執筆内容検討会は、2019年11月から実施され、すでに21回開催されている。本年度は、以下のように各文書・現地調査で判明した成果を報告した。

東昇「19世紀前期の洪水・干魃と掘池 山本村を中心に」
 山田洋一「蜷川家領名寄帳等に見る普賢寺郷の所領構成の一端」
 竹中友里代「朱智神社の宮座と神仏習合」
 中川博勝（中世・近世部会員）「森島家文書 京田辺関係史料」
 松本勇介（市史編さん室）「『京田辺市史』の近世部門の検討」
 東昇「昭和7、8年大早魃—オーロラとおかげ参り—」

2023年5月29日には、東が「19世紀前期の洪水・干魃と掘池 山本村を中心に」について報告した。まず、山本村の庄屋文書から、享和2年（1802）の木津川・宇治川・淀川洪水の実態、被害状況を確認した。つぎに、この洪水の影響が、文化年間（1804～1818）まで継続したことを山本村・大住村の事例から紹介した。また、この享和・文化期には、洪水だけでなく干魃も頻発していたことを指摘した。

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
